

# 産地戦略

実施主体 自然と共生する里づくり連絡協議会  
 都道府県 千葉県  
 対象地域 いすみ市  
 対象品目 水稲



実施期間 令和6年度

## 新たに取り入れる環境にやさしい栽培技術の分類

化学農薬の使用量の低減	温室効果ガスの削減（水田からのメタンの排出削減）	温室効果ガスの削減（プラスチック被覆肥料対策）
化学肥料の使用量の低減	温室効果ガスの削減（バイオ炭の農地施用）	温室効果ガスの削減（省資源化）
● 有機農業の取組面積拡大	温室効果ガスの削減（石油由来資材からの転換）	温室効果ガスの削減（その他）

## 目指す姿

有機栽培米の生産において、雑草抑制に有効な深水管理について、特に大規模経営体では毎日の水管理に手が回らないことで、雑草害に見舞われ、目標収量420kg/10aを確保できない事例が多い。そこで、給水管理システム（WATARAS）を活用し、水管理にかかる手間を省力化することで、大規模稲作経営体でも、環境保全に配慮した除草剤を使用しない雑草対策が行えるかどうかの検証を行った。実証結果を基に作成した栽培マニュアルを生産者に周知することで、今後は大規模経営体にも、有機栽培米の生産を普及していく。

## 現在の栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
現在の有機稲栽培体系	田植え		中干し 穂肥	間断灌水	落水 収穫		秋耕		深耕・碎土		均平耕耘・元肥・畔塗り		
雑草管理技術	深水浅代かき 抑草資材	深水管理 ※手作業 兼用除草機											

## グリーンな栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
大規模経営体向け栽培体系	田植え		中干し 穂肥	間断灌水	落水 収穫		ブ라우耕	バーチカルハロー	レーザーレベラー		元肥散布・畔塗り		・大区画は場均平化のため、ブ라우耕 ・バーチカルハロー・レーザーレベラー使用
省力的雑草管理技術	深水浅代かき 抑草資材	深水管理 ※WATARAS アイガモロボ 兼用除草機											・WATARASによる水管理の省力化 ・アイガモロボ使用による兼用除草機の使用回数の削減(=省力化)

## グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

	現状R6	目標R12	備考
(参考) 対象品目の作付面積 (ha)	40	▶ 52	
グリーンな栽培体系の取組面積 (ha)	4.1	▶ 6	
環境にやさしい栽培技術の取組面積 (ha)	4.1	▶ 6	
省力化に資する技術の取組面積 (ha)	4.1	▶ 6	

## 環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要

### 〈技術の内容・効果〉

分類	産地の慣行	新たに取り入れる技術	期待される効果
環境 省力	手作業による深水管理	▶ ほ場水管理システム(WATARAS)を用いた深水管理	化学農薬不使用(地域慣行成分回数14→0) 水管理の省力化(作業時間の35%以上削減 : 6時間/10a→3.5時間/10a)
環境 省力	乗用除草機による1作あたあたり3回程度の除草	▶ アイガモロボットによる抑草	化学農薬不使用(地域慣行成分回数14→0) 除草の省力化(乗用除草機による除草:これまで 3回/作→1回以下/作)

### グリーンな栽培体系の普及・定着に向けた取組方針

マニュアルをHP等で公開するとともに、日々の普及指導に活かし、普及を図る。

### 関係者の役割

関係者名	自然と共生する里づくり連絡協議会 (環境保全型農業連絡部会)	自然と共生する里づくり連絡協議会 (事務局=いすみ市農林課)	千葉県 (夷隅農業事務所改良普及課)
役割	栽培体系の実践	マニュアル周知・有機転換者の勧誘・ 営農指導	マニュアル作成・普及指導

### 事業を活用して導入した農業機械等の活用面積の目標

農業機械名	作業内容	活用面積 (R12) (ha)	備考